

# も い 森 林 の 話

第9話

上川北部森林管理署

佐藤 光弘

採用二年目の若手職員のコーナーです

北海道に赴任してから2度目の夏を迎えました。実はこれが初来道であり、これまで訪れたことのない地へ新たに足を踏み入れたことへの期待と、これから始まる長い社会人としての生活に対する不安で心がいっぱいだったことが懐かしく感じられます。

林業マンとして最初に覚えることは、樹木の名前や特徴、木材利用等に関する基礎知識を学ぶことです。

今回、樹木に関する理解を深めるために、署内の勉強会の一環として同世代の若手職員を中心に集まる機会がありましたので、その内容を紹介させていただきます。

事前に各人が指定された樹木の特徴について調べました。日ごろ、樹木に対してあまりの関心が高かったのですが、自ら情報を集め、資料としてまとめるという作業を通して知識の向上につながりました。北海道は広葉樹の種類が豊富で、その中でも家具や楽器

の原料として用いられる有用な広葉樹は高値で取引されています。

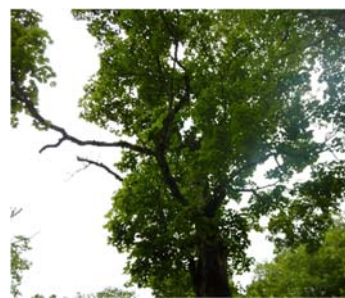
「ニレノキ」について調べたところ、ニレ科ニレ属の樹木の名前の由来は、樹皮を剥ぐとネバネバの樹液が出ることから「ぬれの木」と呼ばれ、それが次第に「ニレノキ」となったそうです。そのニレノキの中でも「春に花が咲く」ことからハルニレと呼ばれるなど、興味深い特徴や命名の由来などがあることがわかりました。



調べた樹木について意見交換

当日は、同年代の職員が集まり実際に樹木を囲んで、樹木の特徴や見分け方、利用方法について、各人が事前にまとめた資料を持ち寄り意見を

交換し、まとめとして先輩からのアドバイスを頂きました。自ら調べたことを実際に見て触れて実感できる貴重な体験が出来ました。



イタヤカエデの樹形

樹木は季節に応じていろいろな姿を見せます。例えば、葉のない冬の時期の落葉樹は、樹木の分類上の所属や種名を決定することに利用できる情報が樹皮や樹形、枝ぶり、冬芽などに限られます。そのため季節に応じて注意深く樹木を観察し、樹皮などで見慣れておくことが必要です。

また同じ樹木でも幼齢木と老齢木とでは樹皮の色や裂け具合が異なるなど、なかなか樹種を特定することは難しいと感じました。



ハンノキの若い幹（左）と老齢木の幹（右）

しかし、見方を変えればどの樹木も生育している地形や環境によって違う表情を見せてくれるということでもあり、改めて木は「生き物」であるということを実感でき、樹木に関する理解が深められました。

今回、学んだ樹木のほかに、北海道にはたくさん種類の樹木が生育しており、今後も業務を通じてそれらの見分け方は勿論、育て方や、木材利用など「林業」について経験を積んでいきたいと思えます。